

令和6年度農業者等との意見交換会（班ごとの意見）

各班でテーマに基づき、自由に意見を出し合いました。

①地域ぐるみの鳥獣被害対策

<問題点・課題点>

- ・ クマ、イノシシによると思われる牧草ラップが破られる被害が発生している。
- ・ イノシシの罠にクマが入り、餌をとられてしまう。肝心のイノシシは捕獲できていない。
- ・ 電気柵の設置費用が高額。電気柵を設置した後の管理（草刈り等）が大変。
- ・ 猟友会会員の高齢化。また、後継者が不足している。
- ・ 人口減少している地域において、野生動物の生息域が拡大している。
- ・ 野生動物と対面しても、逃げる気配がない。
- ・ シカの個体数が増加している。牧草等の栄養のある食べ物があれば増え続けてしまい、手に負えない状態。
- ・ 遊休農地の増加により、鳥獣の隠れ家となる場所が増えている。

<要望・対応策>

- ・ 鳥獣被害対策の補助だけでは、被害を防ぎきれないため、捕獲等で数を減らす必要がある。
- ・ どの地域で被害が大きいか確認し、地域で話し合って対策することが必要。

②北上の農業を振興するためには

<問題点・課題点>

- ・ 耕作放棄地の増加。草刈りも追いつかない。
- ・ 後継者不足。
- ・ 農業者の高齢化による離農者の増加。
- ・ 農業用機械が高額で買い替えもままならない。
- ・ 生産物の価格転嫁が進まない。
- ・ 農地集積について、虫食い状態になっている場所がある。
- ・ 畑を返納された後に作付けしない圃場は、雑草処理のためだけにトラクター作業が見られる現状。
- ・ 農地を返されても農機具がないため耕作できない。返された人はどうしたら良いのか。農業用機械を購入するにも、費用が高すぎる。
- ・ 兼業農家も退職後は高齢者の年代になる。自分の代で終了するという声も聞い

た。

- ・ 古いトラクターやコンバイン等の更新時の費用捻出に苦慮している。

＜要望・対応策＞

- ・ 耕作をやめた土地の利用を進めるための支援が必要。例えば、地域内外から新規就農者を募集するなど。
- ・ 県や市の補助対象はＪＡの野菜部会がある品目のみで、補助基準は面積を増加することが条件になっている。北上は人口を維持していて地消の機会も多いので、少量多品目農家の支援または育成の政策が必要。
- ・ 農業法人の労働力不足について離農者の農業経験を活かし、パート等の労働者として支援する。
- ・ 農地を返納された人は、農業用機械がない。手軽に使える農機レンタルがあれば、遊休農地も減るのではないか。

③中山間地域の土地利用

＜問題点・課題点＞

- ・ 麦や大豆、そばの転作をしているが５年に一度の水張ルールでどうなるか見通しが立たない。
- ・ 未整理地のため、水利も悪く耕作放棄が進んでいる。
- ・ ５年から１０年後の状況が見えない。
- ・ 農業用水の確保が大変。
- ・ 人口減少及び高齢化地域であるため、荒れ地等の管理が不十分な土地が年々増加している。
- ・ のり面が急で高低差があるため、草刈が重労働。
- ・ 経営をやめた場所で倒されたリンゴの木がそのままになっている。ブドウ園もやめている。田も柳が茂っており、山林化し耕作放棄地になっている。
- ・ 水田面積が小さく、大型機械の利用が難しい。
- ・ 斜面が崩れたままになっている場所が多くみられる。

＜要望・対応策＞

- ・ 有効な土地利用を検討する必要がある。例えば、風力発電や太陽光発電など。

④農・工・商のバランスの取れた施策

＜問題点・課題点＞

- ・ 川東地区の人口減少が著しく、農業だけでなく観光にも影響がでるのではないか。

- ・ 観光地となっている地区は荒れ地を出さないように頑張っている。
- ・ 後継者がいないので、農地だけでなく家そのものが維持できない。
- ・ 6次産業化、販路拡大、ブランド化等が中心になると思うが、生産者の意見を聞く場が少ない。
- ・ 工業の発展が目立つが、地域差がある。
- ・ 農村地域での作業、食文化などの体験や草刈りなどの労働力不足で困っている人の手伝いをしたいとほかの職種の方から声があがっている。異なる分野の交流・連携から新しい価値が生まれるのではないか。

<要望・対応策>

- ・ 各地で高校生や専門学生のアイディア料理が注目されている。ピーマンや大豆の生産が増加しているし、力を入れているので、6次産業ではじかれてしまうものを加工し、販売を考えてほしい。
- ・ 野菜を作っても近くの産直に出すしかないので、販売の方法やいろいろな方と交流できる場を市でも企画してほしい。
- ・ 工場周辺の農地に関して、工場排水に対する不安がある。排水検査をしてほしい。